

2008年11月18日
日興アセットマネジメント株式会社

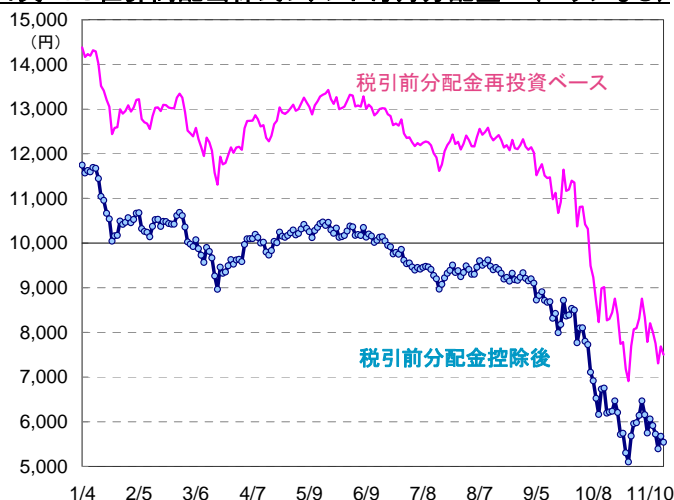
「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)/B(ヘッジあり)」
足元の基準価額推移について

世界的な金融不安による景気減速懸念は、本格化の様相が一段と高まっています。今月に入り、協調利下げや各国政府による緊急経済対策などの発表が相次ぐ一方、企業業績や経済指標の悪化などで実体経済への影響が再認識され、世界の株式市場は依然として不安定な展開を余儀なくされています。また、外国為替相場においても主要通貨に対して円高傾向が続いていることなどから、当ファンドの基準価額は、引き続き軟調な展開となっています。

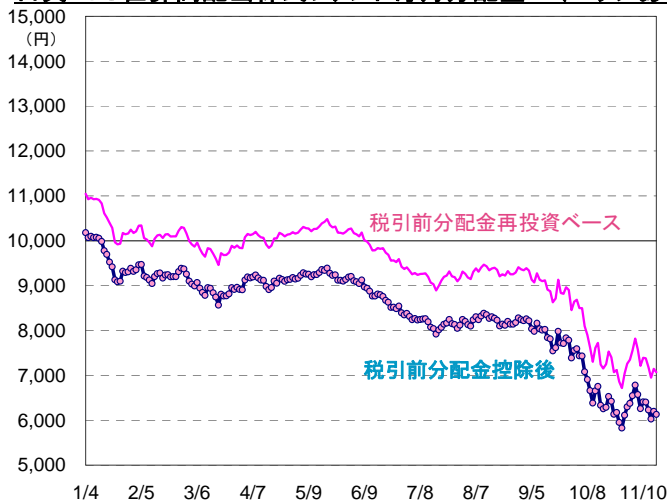
次ページ以降では、足元の運用状況と見通しなどについてご説明いたします。

年初からの基準価額推移(2008年1月4日～2008年11月17日)

日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)



日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 B(ヘッジあり)



日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型	2008/11/17 基準価額	2008/11/17 分配金再投資ベース	2008/10/31 からの騰落率
A(ヘッジなし)	5,541円	7,505円	-7.3%
B(ヘッジあり)	6,133円	7,071円	-3.8%

【ご参考】

主要指数	11月14日	10月30日 からの騰落率	備考
MSCIワールド指数	2,781.20	-7.4%	米ドルベース
主要為替相場(対円)	11月17日	10月31日 からの騰落率	
米ドル	96.52	-1.9%	円高
ユーロ	121.06	-3.8%	円高
英ポンド	141.76	-11.6%	円高
豪ドル	61.95	-5.6%	円高

※基準価額は信託報酬(年率1.155%(税抜1.1%))控除後の1万口当たりの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。

※MSCIワールド指数は、世界の株式市場の動きを表す代表的な指数です。

MSCIワールド指数は、「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型」のベンチマークではありません。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

(1/6)

当資料は、日興アセットマネジメントが「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)/B(ヘッジあり)」の投資信託説明書(交付目論見書)を補足することなどを目的とし、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した販売用資料です。

※以下は、当ファンドのマザーファンドの投資顧問会社であるクレディ・スイス社からのコメントです。

<足元の市場環境と運用状況>

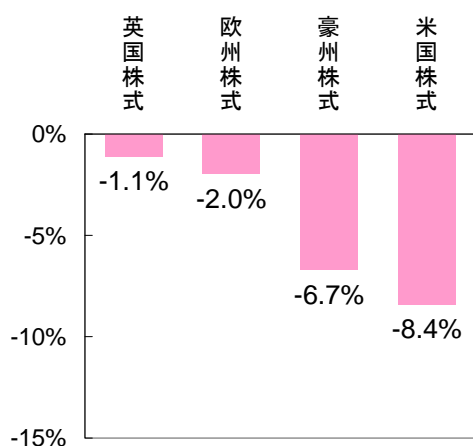
米国発の金融危機が実体経済に影響を及ぼしていることから、先月のグローバル株式市場では、金融セクターにとどまらず、素材、資本財といった景気敏感セクターなどが軟調となりました。足元では、悪化を示す企業業績や経済指標の発表などが失望売りにつながる一方で、各国政府による緊急支援対策などが好感され、上昇する場面も見られるなど、日々のニュースによって一進一退を続けながらも軟調な展開となっています。

こうした環境下、当ファンドも市場全体の影響を免れず、下落を余儀なくされていますが、その度合いは市場と比較して小幅にとどまっています。その理由は、(1)高配当利回り銘柄は配当収入が期待できるため、株価の軟調な局面において相対的に投資家に選好されやすいこと、(2)このところの商品市況の下落や景気後退の影響の打撃を受けている素材、資本財といったセクターは配当利回りが概して低い傾向にあり、当ファンドでの組入れが相対的に少ないことなどが考えられます。

当ファンドでは、増配や株価上昇の可能性の高いと考えられる、質の高い高配当利回り銘柄に引き続き焦点を当てていますが、地域別では、高配当利回りの面で妙味のあるアジア・太平洋(除く日本)と欧州を多めに保有し、北米と日本については、配当面で魅力的な投資対象が少ないことから投資を抑え目にしていきます。また、現在の金融危機が銀行の収益と資本基盤に大きな影響を与え、減配につながる懸念が持たれることから、金融セクターの配分を更に削減した一方で、割安な水準にあり、配当が安定的であると見られる製薬会社への追加投資を行ないました。

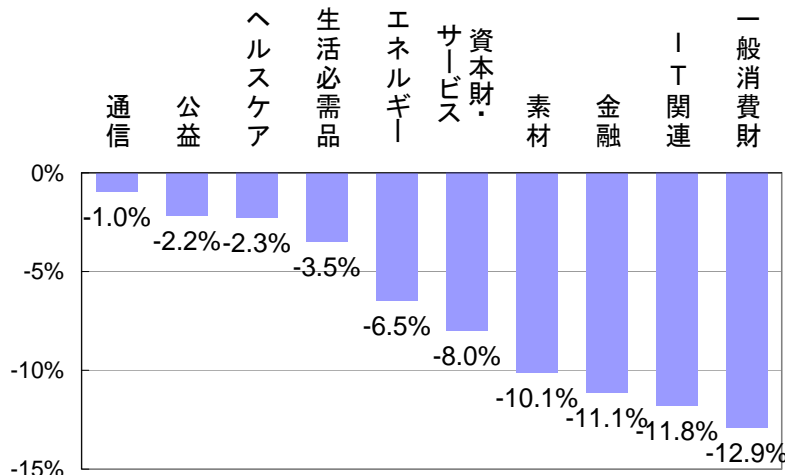
MSCI各国指数(現地通貨ベース)騰落率

(2008年10月30日～2008年11月14日)



MSCIワールド指数(ドルベース)業種別騰落率

(2008年10月30日～2008年11月14日)



(信頼できると判断したデータを基に、日興アセットマネジメントが作成)

※MSCIワールド指数は、MSCI Inc.が発表している、世界の主要国の株式市場の動きを捉える基準として広く認知されている指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。 (2/6)

当資料は、日興アセットマネジメントが「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし) / B(ヘッジあり)」の投資信託説明書(交付目論見書)を補足することなどを目的とし、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した販売用資料です。

※以下は、当ファンドのマザーファンドの投資顧問会社であるクレディ・スイス社からのコメントです。

<今後の見通しと運用方針について>

各国政府の措置が、ようやく世界の銀行システムの安定化に寄与し始めたとみられ、銀行間金利や銀行の負債コストは低下傾向にあります。各国政府は今後、追加的な支援の提供を迫られる可能性もありますが、行動を起こすという政治的意志がこれほど多くの国で極めて明確に示されたからには、必要に応じた支援を期待できると見えています。一方、株価の面では割安感が強いものの、企業収益の伸びが不透明であるため、依然として変動性の高い相場展開が続き、本格的な反発はしばらく先になる可能性も十分見ておく必要があると考えています。

こうした環境において、当ファンドは安定配当が期待できる銘柄や、景気変動の影響を相対的に受けにくいセクターを多めに保有しているため、現状では株価の下げに強い性格を維持しています。そして、増配や株価上昇の可能性の高い、質の高い高配当利回り銘柄に引き続き焦点を当てています。

地域別には、高配当利回りの面で妙味のあるアジア・太平洋(除く日本)と欧州を引き続き多めの保有とし、相対的に妙味の少ない北米と日本については、引き続き少なめの保有としています。

セクター別では、通信、公益など配当が魅力的で景気の影響を受けにくいセクターを多めに保有しています。一方、一般消費財、素材、資本財などの景気敏感セクターは収益のリスクが最も大きいため、少なめの保有とし、金融セクターについても、大幅な減配や株式配当の実施を受けて配分を少なめにしています。ヘルスケア・セクターはやや少なめの保有としていますが、セクター内の高配当の製薬会社についてはキャッシュフローが安定しており、配当にも安心感があることから、多めに保有しています。

引き続き、「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし) / B(ヘッジあり)」をご愛顧くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

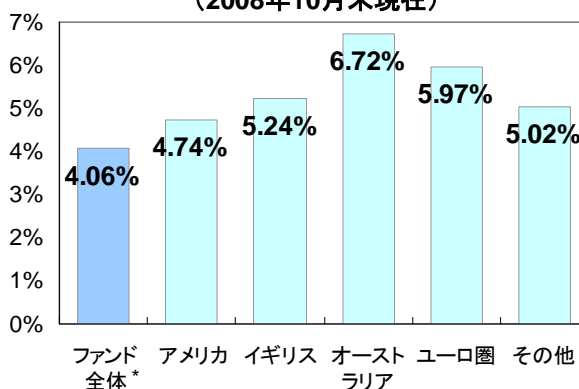
以上

<株式組入上位10カ国> (2008年10月末現在)

	国名	比率
1	アメリカ	42.9%
2	イギリス	11.0%
3	日本	5.7%
4	フランス	5.5%
5	オーストラリア	5.3%
6	ドイツ	4.3%
7	シンガポール	3.2%
8	フィンランド	2.8%
9	オランダ	2.7%
10	香港	2.6%

※マザーファンドの組入状況です。
比率は対純資産総額比率です。

<組入株式の予想配当利回り(年率換算)> (2008年10月末現在)



*「ファンド全体」については、信託報酬(年率1.155%(税抜1.1%))を控除しています。

※上記はクレディ・スイスの予想であり、当ファンドの組入株式の利回り及び運用成果等について何ら約束をするものではありません。

※上記予想配当利回りは、月末時点で組入れている各組入株式の予想配当利回りをマザーファンド全体、あるいは地域別に組入株式時価評価額のウェイトで加重平均したものです。

※投資対象国現地で支払う税金を控除しております。

※為替ヘッジコストは控除しておりません。

●2008年10月31日現在のマンスリーレポートもあわせてご参照ください。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

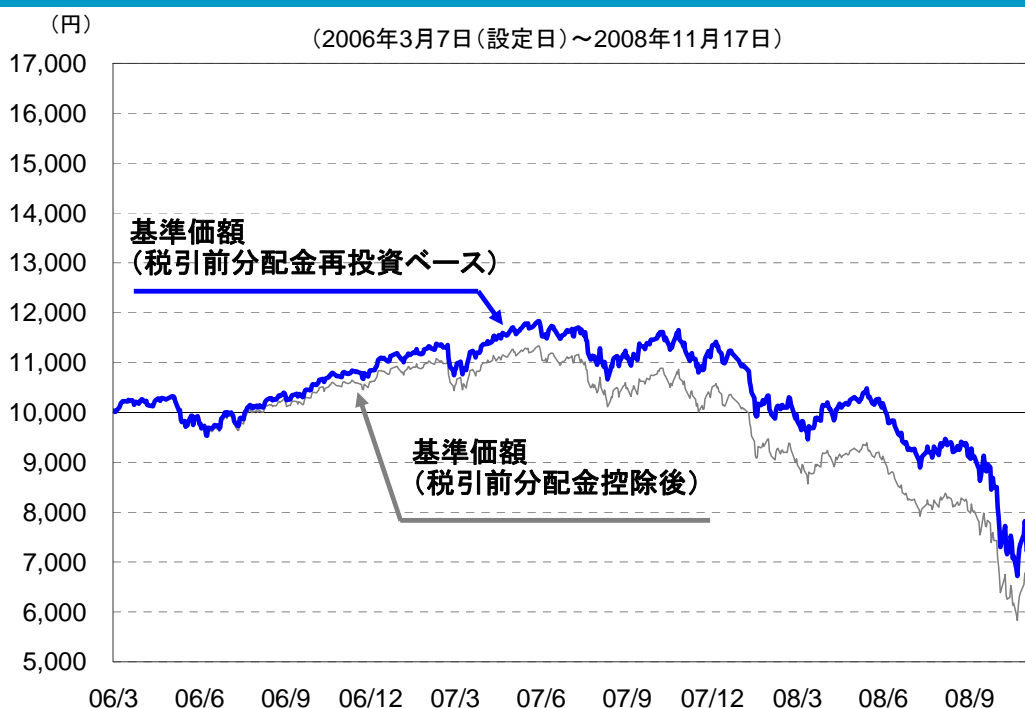
(3/6)

当資料は、日興アセットマネジメントが「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし) / B(ヘッジあり)」の投資信託説明書(交付目論見書)を補足することなどを目的とし、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した販売用資料です。

日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)



日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 B(ヘッジあり)



※基準価額は信託報酬(年率1.155%(税抜1.1%))控除後の1万口当たりの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

(4/6)

当資料は、日興アセットマネジメントが「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)／B(ヘッジあり)」の投資信託説明書(交付目論見書)を補足することなどを目的とし、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した販売用資料です。

お申込メモ

- 商品分類 : 追加型株式投資信託／国際株式型(一般型)／自動けいぞく投資適用
- お申込単位 : <分配金再投資コース>
(新規申込時)50万円以上1円単位 (追加申込時)1万円以上1円単位
(スイッチングの場合)1万円以上1円単位、(全額スイッチングを行なう場合)1円以上1円単位
※別に定める場合この限りではありません。
- お申込価額 : お申込受付日の翌営業日の基準価額
- お申込不可日 : 取得申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日、チューリッヒの銀行休業日に当たる場合は、取得のお申込みの受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、日興コーディアル証券にお問い合わせください。
- 信託期間 : A(ヘッジなし) 無期限(平成17年2月15日設定)
B(ヘッジあり) 平成23年5月18日まで(平成18年3月7日設定)
- 決算日 : 毎月18日(休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 : 毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として安定した分配を継続的に
行なうことをめざします。なお、分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、
委託会社の判断により分配を行なわないことがあります。
※原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。
再投資を停止し、分配金のお受取りをご希望される場合はお申し出ください。分配金のお受取り
をご希望される場合、日興コーディアル証券の定める所定の日よりお支払いいたします。
- ご換金価額 : 換金請求受付日の翌営業日の基準価額
- ご換金不可日 : 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日、チューリッヒの銀行休業日に当たる場合は、換金請求の受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、日興コーディアル証券にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い : 原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
- 課税関係 : 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

- お申込手数料 : お申込手数料率は、お申込金額に応じて以下のように変わります。
1億円未満・・・3.15%(税抜3.0%)、 1億円以上5億円未満・・・1.575%(税抜1.5%)
5億円以上10億円未満・・・0.7875%(税抜0.75%)、10億円以上・・・0.525%(税抜0.5%)
※別に定める場合この限りではありません。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、お申込手数料はかかりません。
- 換金手数料 : ありません。
- 信託財産留保額 : ありません。
- スイッチング手数料: ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

- 信託報酬 : 純資産総額に対して年率1.155%(税抜1.1%)を乗じて得た額
- その他費用 : 組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息 など
※その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※当ファンドの手数料などの合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なります
ので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: (社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会
- 投資顧問会社 : クレディスイス
- 受託会社 : みずほ信託銀行株式会社(再信託受託会社: 資産管理サービス信託銀行株式会社)
- 販売会社 : 日興コーディアル証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第129号
加入協会: 日本証券業協会、(社)日本証券投資顧問業協会、(社)金融先物取引業協会

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

当ファンド(マザーファンドを含みます。)は、主に株式など値動きのある証券(外貨建証券は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

一般に株式の価格は、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

【流動性リスク】

市場規模や取引量が少ない場合、組入銘柄を売却する際に市場実勢から期待される価格で売却できず、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

一般に投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 B(ヘッジあり)」は原則として為替ヘッジを行ないませんが、為替ヘッジを行なうにあたっては、ヘッジコストが発生します。また、為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。なお、ヘッジコストとは、為替ヘッジを行なう通貨の金利と円の金利の差に相当し、円の金利の方が低い場合には、この金利差の分だけ収益が低下することになります。

■その他の留意事項

- 当資料は、日興アセットマネジメントが「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)／B(ヘッジあり)」の投資信託説明書(交付目論見書)を補足することなどを目的とし、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した販売用資料です。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、日興コーディアル証券より、投資信託説明書(交付目論見書)などをあらかじめ、または同時に お渡ししますので、必ず詳細をご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。 (6/6)

当資料は、日興アセットマネジメントが「日興・CS世界高配当株式ファンド毎月分配型 A(ヘッジなし)／B(ヘッジあり)」の投資信託説明書(交付目論見書)を補足することなどを目的とし、投資家の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した販売用資料です。